

理事長挨拶

一般社団法人 玄洋社記念館
理事長 妹尾俊見

平素より玄洋社記念館へのご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵攻をはじめとする世界各地にての武力紛争は絶え間なく続いております。

また中国による国境問題や強行的な外交政策はアジア圏内の情勢不安を煽っております。

このような中、我が国はアジアでの立場、役割をさらに明確にしていき、リーダー国として立ち回っていく必要があると考えます。

しかしながら、我が国の国内情勢は政権与党による積み重なる不祥事の為

に国政選挙で連敗し、少数与党による政権運営、未知数である新勢力の台頭という歪な政局となっております。

また、国内外経済の停滞による、物価高、円安傾向など、国民生活は目に見えて苦しくなっております。

このような世情の過渡期には、玄洋社先達の教えや金言は、強い日本国再生を目指す中、闇を照らす光明となりうる

と確信しております。私たち、玄洋社記念館は顕彰祭などの行事を通して、玄洋社の偉業を後世に繋いでいきます。



館報

玄洋144号

令和7年10月1日

発行

一般社団法人

玄洋社記念館

郵便番号 814-0013

福岡市早良区藤崎2丁目

12番11号

E-mail: genyosha.kinenan1@gmail.com

玄洋社憲則

- 第一条 皇室ヲ 敬戴ス可シ
第二条 本国ヲ 愛重ス可シ
第三条 人民ノ権利ヲ 固守ス可シ

今号の主な内容

- ▽福岡市博物館特別展 Ⅱ 1面
▽「広田弘毅先生顕彰祭」斎行報告 Ⅱ 2面
▽館報バックナンバー 来島恒喜小伝
会費納入のお願い Ⅲ 3・4面
▽訃報・各月の銘言 Ⅴ 5面
▽賛助会員芳名録 Ⅵ 6面

玄洋社記念館所蔵の資料を多数展示



大正13年秋、頭山翁（前列右）と孫文先生（前列中央）最後の会談Ⅱ神戸のホテルにて

アジアの激動と福岡ゆかりの人びと

本年は玄洋社とも深い交流がありました孫文先生の没後百年にあたります。

十九世紀半ばから中国では清朝崩壊、中華人民共和國が成立、日本では開国、明治維新など、アジア諸国の秩序や国家体制が大きく変化する激動の時代でありました。

若かりし頃から革命運動に身を投じた孫文先生の活動を支えた日本人の中には福岡や玄洋社にゆかりがある人が多くいました。

この度、九月より福岡市博物館にて、「アジアの激動と福岡ゆかりの人たち」という企画展示が開かれます。

福岡が生んだ硬骨の政治家

10/25(土)

中野正剛先生 顕彰祭のご案内

「中野正剛先生顕彰祭」を次の通り斎行いたします。どなたでも参加出来ます。玄洋社記念館主催。

日時：令和7年10月25日（土）11時開始

場所：鳥飼八幡宮境内「中野正剛先生銅像」前（福岡市中央区今川2丁目1-17）

なお、雨天時は中止といたします。

参加費：1,000円

お問合せは玄洋社記念館事務局まで。

この企画展には、玄洋社記念館所蔵の資料が多数展示されることとなっております。孫文先生と郷土福岡、玄洋社との繋がりがや当時の福岡の様子がよくわかると思いますので、是非、博物館へ足を運んで頂きますようお願い致します。

福岡市博物館
アジアの激動と福岡ゆかりの人びと2
企画展示室4
令和7年9月9日（火）
～11月9日（日）



広田弘毅先生

顕彰祭を斎行

郷土福岡が生んだ総理、広田弘毅先生の顕彰祭が、五月晴れに恵まれた五月三十一日、福岡市中央区城内の角にある広田弘毅先生銅像前で、神事により厳かに行われた。

玄洋社記念館の妹尾俊見理事長主催による顕彰祭には約30名が見守る中、護国神社田村宮司の祭詞により始まり、玉串は妹尾理事長、山崎拓明道会理事長、阿部真之助理事(玄洋社に政治を学ぶ議員の会会長)、安部泰宏理事(人参畑塾の会)が奉奠した。

また、寺田蝶美先生による筑前琵琶「広田弘毅」の献奏が行われ、参列者の胸を打った。

神事後、妹尾理事長は次のように述べた。
「極東軍事裁判に臨



寺田蝶美先生

んで文官であつても何も言い訳をせず、だれにも迷惑をかけず、最初から生還を期せず、最後まで自分一人で責任をとられた行動は日本男児の鏡であり、郷土福岡からこのような立派な人が生まれたことを誇りに思います。この功績を顕彰し、引き継いでいくことが肝要です。今の日本の情勢を広田先生がご覧になった時、どのように思われるだろうか。我が国の行く末を憂う中で、広田先生をはじめとする偉人たちの功績は、私たちの進むべき

道を照らす道標となります。未来の世代に伝えてこそ、その精神は真に生き続けるのです。」



筑前琵琶「広田弘毅」の献奏

来島恒喜小伝

風蕭々

柳 猛直

<2>

憲法と条約改正

明治二十年ごろ自由民権の志士たちを憤激させたのは「鹿鳴館」のバカ騒ぎであった。

鹿鳴館は明治十四年から三年がかり工費十八万円で東京・日比谷に建設された煉瓦造り二階建ての迎賓館で設計者はイギリス人のコンドル。当時としては超モダンな建物であった。

これは外務卿・井上馨の発案で建設されたもので条約改正に備えて日本人が欧米諸国の仲間入りをするに恥ずかしくない文明国であることを誇示するため—というのが建設の意図であった。

ここでは連日、外国の賓客を迎え宴会や舞踏会、バザーなどが開かれていた。つい、この間まで

チョンマゲをつけ大小

を腰にぶち込んで闊歩していた尊攘の志士たちが着慣れぬモーニングを身につけ婦人や令嬢たちも派手なイブニングドレスで夜会にあらわれた。

高官の邸でも夜会や舞踏会が頻りに催された。

最も評判になったのは明治二十年四月二十日、永

田町の伊藤総理邸の仮装舞踏会で主人公の伊

藤はベニスの貴族の服装、山県有朋は奇兵隊の

軍装、井上馨は三河万歳の太夫で鼓をポンポン

打ちながら現れる。警視總監はワラジばきにミノを

つけた児島高德、そのほか浦島太郎、五条の橋の

武蔵坊弁慶と牛若丸、曾我兄弟と思いきいの仮装

であらわれた。

主催者にいわせれば、これも欧米諸国に追いつく

ための涙ぐましい努力

であったというが、まさに百鬼夜行の狂態であつた。伊藤、井上の遊び好きは有名であつたから国

威発揚の苦肉の策といつても世間は顔面通りには受け取らなかった。

杉山茂丸のそのころの詩に

鹿鳴館上宵如昼
歌曲騒然翻舞袖
誰識檻窓零落中
幽囚月下作怨呪

鹿鳴館上宵(よる)昼の如し

歌曲騒然として舞袖ひるがえる

たれか識らん檻窓(かんそう)零落のうち

幽囚月下に怨呪(えんじゅ)を作(な)す

というのがある。

また保安条例で捕まつて警視庁に護送される壮士たちが鹿鳴館の前を

引かれて通る情景が「自由党史」に記されている。

「時、あたかも深夜、寒

風砂を捲いて肌まさに

劈(つんざ)かるものの如し。途(みち)鹿鳴館の前を過ぐ、門内車馬絡繹格

経(らくえき)硝灯煌々として白昼を欺き音楽、

舞路の声、洋々たり。総代(片岡健吉以下)等、為にますますその感慨を深くせりという」

壮士たちが鹿鳴館の狂態を怒りをこめて見ていたことがよくわかる。

政府高官の中にも、この風潮を苦々しく見ていた人もいたが勝海舟が

たまりかねて「時弊二十条」の建白書を出したのも、このころのことである。

勝海舟の建白書は、まず「家の中の折り合いが悪ければ富家も貧家となる。同様に国においても国民の折り合いがよくなければ富国も貧国となる。近來わが国の政

権は旧薩長兩藩士でなければ近寄れないと一般では思い、薩長以外の者は希望を絶たれて恨みを抱いている。これではないかと。国内一和が肝要

であると説いた上で

一、近來高官の方がさしたる事もこれなきに宴集夜会等にて太平無事、奢侈(しゃし)の風に御流

れ候やに相見え候。何とか御工風(くふう)穩便の御宴会にされたく候と。

一、舞踏会盛んに行われ、ついで淫風の媒介となる如き風評も下に

は粉々、窃に相伝え候。左様の儀、万々あるまじく候えども今少し御ひ

かえ、いわゆる程よくなされ候方よろしく候と。

この二箇条はどうにてもよろしき儀ながら下民貧窮のあまり諺々訛伝に至り、ついに偽をして真となし、また真を偽となし候情これあり、外

国人ども思誤(思いちがい)これなくとも申し難く、左様にては大に万事相響を生じ候よう相成り申すべしと存じ候と。

言葉は柔らかいけれども相当痛烈である。「こんなことをしていると肝心の条約改正にも逆に悪影響がありますよ」という警告である。

そのころな女好きの伊藤博文が社交界のスターであつた戸田氏共伯爵婦人・極子に、けしからぬ振舞いをしたという風評が広がっていた。

極子は夜会の会場から裸足で飛び出して客待ちをしていた人力車に飛び乗って邸に逃げ帰ったという。

間もなく戸田伯爵がオーストリア公使に任命されたのが噂を証明するもののように受け取られていた。

伊藤を弁護する声もあつた。小松緑の「明治外交秘話」も、その一つである。

「戸田婦人は一きわ目立つ美貌の持ち主であつた上に、なかなか交際が上手であつた。それに伊藤は総理大臣として飛ぶ鳥も落とす勢いをも

ちながら婦人には愛嬌

館報バックナンバー

者であつたから、いやしくも彼から声をかけられると、たとい虚栄心の無い婦人でも、たいていは伊藤の話し相手になるのを名誉と心得ていたのである。戸田婦人は単に伊藤の話相手になつて、たに過ぎなかつた。

男女七歳にして席を同じうせずなどという東洋気分の抜けない明治二十年ごろの世人が単に男女二人が別室で対話していたという事実からして、あらぬ疑いを起こしたのも無理ではなかつた。しかし、これを一々弁解することはもとより不可能であつた。伊藤はかわいそうに、とうとう風俗壊乱の元凶と見なされてしまった。それに巻きぞえをくつた女性も、いい面の皮であつた。

これを書いた小松緑は慶応元年、会津に生まれたもと外交官で伊藤、山県等の愛顧を受けた人である。

明治二十年代はじめの最大の懸案は条約改正

と憲法の制定であつた。この二つの目標に対して政府も民間有志も最大の関心と精力を集中するのだが当然、両者の考え方は鋭く対立する。勢いのおもむくところ激しい火花が散つた。

識者の批判の的となつた鹿鳴館の狂態は条約改正のための苦肉の策というものであつたが、病みつきになつて勝海舟からイヤ味をいわれる。極秘にされていた井上の条約改正案なるものが、ちらちら外部にもれはじめた。それによれば不平等条約の眼目となつていた治外法権は、すぐには撤廃せず漸進的に改革していく。外国人の犯罪を裁く時は日本人の判事のほかに外国人の判事も参加させる。関税も遠慮しながら少しばかり上げさせて頂くというわけで欧米各国が築いている高い関税障壁に比較すれば、まさに月とスッポンであつた。

この井上案に対して政府部内でも農商務省の

谷干城が真つ向から反対して閣外に去つた。西南戦争の時の熊本籠城の指揮官で硬骨漢で知られていた軍人である。フランス人の法律顧問ボアソナードも、この案は屈辱的ではないかと首をかしげるほどであつた。自由民権の志士たちが、いきり立つたのも無理はない。

井上は詰め腹を切らされた形で辞職するのだが、この改正案は井上案というよりも実は伊藤案であつた。

反対派はそのことを知っていたから伊藤内閣打倒の火は鎮まるところかますます猛烈になつてきた。

そこで保安条例の発動となるのだが伊藤は二十一年四月三十日、内閣を黒田清隆に譲つて新しく作つた枢密院の議長になつて憲法の仕上げに専念することになる。ここでも「伊藤は旗色が悪くなつたので枢密院に逃げ込んだ」と悪口をいわれた。

伊藤は明治十五年、憲法調査のために渡欧しドイツで法律学者グナイストやシュタインの指導を受け鉄血宰相といわれたビスマルクに心酔して翌十六年帰国したが、それ以来、葉巻のみ方までビスマルクの風をまねて、ひそかに東洋のビスマルクをもつて任じていた。

もつとも、これは本人が自負していたほど周囲からは認められなかつたようで漫画の材料になつた。

※次号「風蕭々」3

を掲載します。

お知らせ

現在、全国各地に「玄洋社」の名を掲げる政治団体が存在しておりますが、これらは明治12年に福岡で創立された正統の玄洋社とは一切関係がありません。

玄洋社は、創立以来昭和21年まで存続いたしましたが、終戦後、占領軍の命令により強制的に解散させられました。その後、「玄洋社」の名を勝手に名乗る者が現れたため、不正利用を防ぐ目的で、昭和51年2月に政治団体「玄洋社」(代表・阿部真之助)として届け出を行い、名称のみを保存しております。政治活動は一切行っておりません。

しかしながら、郷土の先覚者たちの業績と玄洋社の精神を後世に伝え、広く社会の皆様にご理解いただきたいの思いから、昭和53年11月に「玄洋社記念館」を開館し、今日に至っております。

記念館の運営は、すべて有志の皆様からの賛助金によって支えられております。今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■賛助会員のご案内

玄洋社記念館は、皆様の温かいご支援により活動を続けております。

個人：1口 10,000円
法人・団体：1口 30,000円
広告枠：1枠 30,000円

※何口からでもお申込みいただけます。

賛助会員の皆様へは、毎年「玄洋社カレンダー」をお届けしております。
会員以外の方にも、ご希望に応じて1部3,000円(送料込)でお分けいたします。

会費・広告費のお振込は、郵便局または銀行にてお願いいたします。
振込先はいずれも「一般社団法人 玄洋社記念館」宛でお願いいたします。
広告掲載は玄洋社記念館事務局へご連絡ください。

【郵便振込】

口座番号 01770-1-20738

【銀行振込】

西日本銀行赤坂門支店 普通預金
口座番号 0740047

玄洋社記念館理事

津田隆士氏ご逝去



本館理事の津田隆士氏は、令和六年五月二十一日に逝去されました。享年七十九歳。

津田氏は昭和五十四年に福岡市議会議員に初当選以来、八期三十二年間にわたり市政発展に尽力されました。

平成十一年には第六十四代福岡市議会議長に就任し、円滑な議会運営と市政の充実に大きく貢献されました。

特に、都市基盤の整備や福祉・教育の向上

など、市民生活の向上に資する数々の施策を推進され、その功績は今なお広く市民に受け継がれております。

また、議会活動のみならず、地域社会の健全な発展と次世代の人材育成にも尽くされ、その誠実温厚なお人柄は多くの人々から篤い信頼を集めました。

ここにご生前のご功績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



各月の

銘言

【九月の銘言】

中野 正剛

「国は経済によつて滅びるのではない。敗戦によつてすら滅びるのではない。」
指導者が自信を失い、国民が進むべき道を見失ったときに滅びるのである。」

昭和17年(1942年)の秋、敗戦が避けられないと早くから悟った中野正剛は、この言葉を残しました。

これは、戦後の困難な時代において日本がどのように進むべきか、その本質を突いた指摘でもあります。

中野は「天下一人をもつて興る」の演説や「戦時宰相論」の論文においても、単なる戦局の話にとどまらず、国を導くリー

ダーや国民が未来をどう選び取るべきかを説いていました。

つまり、国の命運を決めるのは経済的な破綻や軍事的な敗北そのものではなく、指導者が自信を失い、国民が迷走してしまふことにある——と強く訴えたのです。

この言葉は、戦後だけでなく現代にも通じる普遍的なメッセージとして響いています。

【十月の銘言】

進藤 一馬

世を思い燃え盡くさぬとわが命たぎりし若き日夢のごとしも

市長を辞めた後、久しぶりに上京した進藤一馬氏は、国会議員会館で元労働・運輸大臣の長

谷川峻氏を訪ねました。その際、色紙に一筆を求められて書いたのがこの歌です。

進藤氏と長谷川氏は、

若い頃に中野正剛先生に師事し、東方会の一員として国事に奔走しました。その情熱は八十歳を過ぎてもなお衰えず、むしろ若い世代に向けて熱いメッセージを投げかけているように感じられます。今日の政治家たちにも大いに学んでほしい一首です。

【十一月の銘言】

明石 元二郎

花は散り、
水は流れ
去つて行く。

明石元二郎大佐は、日露戦争でヨーロッパを舞台にロシアの後方攪乱工事を担い、大きな功績を挙げました。しかし、その活動は表に出ることはありませんでした。

戦後、参謀本部から報告書を提出するよう命ぜられ、二部作成したうちの一部に「落花流水」と題を付け、友人や後輩

たちへと託しました。これは、自分と同じように報われない立場に置かれた仲間を慰め、励ます言葉でした。

【十二月の銘言】

安川 健次郎

うちは土地ブローカーじゃないから、あんまり高い値をつけるなよ

西鉄が本社移転のため、安川家の別邸(現在の西鉄グランドホテル)を候補としました。当時の社長・村上功児氏は、弟の安川第五郎氏に交渉を依頼しましたが、そのとき兄・健次郎氏が出した条件がこの言葉です。

健次郎氏は、利益第一ではなく、道義や誇りを重んじる姿勢を示しました。土地や不動産を金儲けの道具としか考えない現代の風潮に対し、先人の心意気を学ぶべきだと教えてくれる一言です。

賛助会員芳名録

令和6年度

▼法人・団体の部

9月10日受付分まで(順不同・敬称略)

【三万円】

(株)アキラホールディングス

(宗)節信院

(株)オーエムジャパン

警固神社

駿和物流(株)

博多港管理(株)

太宰府天満宮(太宰府市)

東海大学

福岡県護国神社

平野神社

(株)理創

宗像大社

鳥飼八幡宮

妹尾 俊見

縄田 智行

進藤 玄

吉村 剛太郎

木下 隆

川崎 賢治

山城 直之

鬼木 誠

岳 康宏

測上 綾子 (宗像市)

大石 宗 (高知市)

鷺海 量良 (東京都)

國松 誠 (藤沢市)

櫻木 富士 (阿南市)

谷本 憲彦 (広島市)

樋口 義則 (糟屋郡)

平山 康樹 (春日市)

堀内 恭彦 (福岡市)

山座 和基 (福岡市)

安川 重臣 (福岡市)

庵原 義一 (古賀市)

永島 英也 (福岡市)

横田 進太 (福岡市)

皆川 明彦 (さいたま市)

岩崎 成敏 (福岡市)

吉武 義和 (防府市)

金谷 美保 (前橋市)

原 祐一 (福岡市)

社会医療法人原土井病院

戸高 有基 (津久見市)

荒津 茂徳 (日進市)

坂井 貞夫 (福岡市)

坂上 英雄 (大阪市)

堺 彪 (福岡市)

柴田 文雄 (福岡市)

秋吉 謙一 (久留米市)

小石原 耕作 (東京都)

小無 光夫 (大府市)

小野 勇夫 (福岡市)

小柳 政則 (福岡市)

松田 元信 (東近江市)

松野尾 英彦 (北九州市)

西口 英世 (川崎市)

西村 眞澄 (福岡市)

西本 潤也 (福岡市)

太田 誠一 (福岡市)

村井 正隆 (久留米市)

大島 泰治 (大野城市)

瀧 篤 (福岡市)

中村 和輝 (筑紫野市)

中村 隆輔 (福岡市)

中本 零時 (東京都)

長岡 聖司 (福岡市)

堤田 智 (福岡市)

田坂 大蔵 (福岡市)

島津 修久 (鹿児島市)

藤川 知佳子 (吹田市)

藤田 道子 (福岡市)

頭山太郎・尚子 (東京都)

内藤 武宣 (東京都)

二之湯 智 (京都市)

梅本 真央 (福岡市)

箱田 満輔 (東京都)

八坂 俊輔 (西之表市)

武田 熙 (さいたま市)

福田 明彦 (福岡市)

平湯 芳裕 (名古屋市)

豊沢 猛 (福岡市)

船木 麻由 (福岡市)

進藤 宏 (東京都)

山村 賢三 (太宰府市)

寺田 蝶美 (福岡市)

後藤 源之 (福岡市)

山崎 登 (東京都)

鳥取 正義 (福岡市)

草野 和子 (松戸市)

川上 晋平 (福岡市)

打越 基安 (福岡市)

伊藤 嘉人 (福岡市)

平畑 雅博 (福岡市)

阿部 真之助 (福岡市)

今林 ひであき (福岡市)

大原 弥寿男 (福岡市)

大森 一馬 (福岡市)

津田 信太郎 (福岡市)

川上 陽平 (福岡市)

調 崇史 (福岡市)

堤田 寛 (福岡市)

鬼塚 昌宏 (福岡市)

稲員 稔夫 (福岡市)

とみながひろゆき (福岡市)

淀川 幸二郎 (福岡市)

もろくま 英文 (福岡市)

おばた 英達 (福岡市)

福田 まもる (福岡市)

中島 まさひろ (福岡市)

藤野 哲司 (福岡市)

新開 ゆうじ (福岡市)

坂口 よしまさ (福岡市)

お礼の言葉

令和六年度賛助会費の納入を賜り誠にありがとうございます。今後とも、ご指導、ご鞭撻を、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

玄洋社記念館 ホームページ

<https://genyosha.jp>



館報のバックナンバーを掲載!!

■広告掲載のお願い

広告枠は、記念館の活動を広く支えていただく大切な力となります。ぜひ、賛助会員としてのご支援とあわせて、広告掲載へのご協賛をお願い申し上げます。



株式会社

海喜

代表取締役 津田 美絵

福岡市早良区藤崎2丁目12番17号
TEL (092) 8311-7711
FAX (092) 8411-1850

海産物一般・ユニフォーム一般



株式会社

別府梢風園

代表取締役社長 別府 大輔

本社 〒832-0025 福岡市東区青葉一丁目六〇五三
TEL 〇九二-六九一-〇六七八
FAX 〇九二-六九一-四五五四
E-mail: info@shoufuen.co.jp



株式会社 アキラ水産

取締役会長 安部 泰宏

本社 福岡市中央区長浜3丁目11-3 111
電話 092-71116601 (代表)

福岡市中央卸売市場 鮮魚仲卸業

建設コンサルタント
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理
ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社
会長 花田 和久
代表取締役社長 児玉 久

本社 福岡市博多区東比恵三丁目二四一九
TEL 〇九二-七〇七-四八三三
東京支社 東京都杉並区高円寺南一丁目三三〇
TEL 〇三-五〇七-八五八〇
営業所 千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎